

# 研究所だより

第119号 令和3年3月

発行:草津市立教育研究所

令和2年度をもってご退職される先生方を代表して、校園所長会長と校長会長よりお言葉をいただきました。

子ども達の笑顔に励まされ

校園所長会長 入江 安喜子（第四保育所長）

今年度は、誰もが想像もしていなかった世界規模の未曾有の事態となり、いろいろなことが中止、縮小となっ  
てしまい、そんな時に退職を迎えることとなった私は、何とも言えない思いで日々を過ごす事となりました。

この時期に保育所で過ごした子どもたちにとって、今でしかできない重要なことが欠落してしまったのでは  
ないか、また、心の育ちは大丈夫なのかと自問自答する毎日でした。しかし、このような中でも、物の捉え方  
一つでいろんなことを工夫することができました。当たり前前が当たり前でできなくなったからこそ、見  
えてきたものがたくさんあり、みんなで知恵を出し合い試行錯誤しながら、取り組んでいきました。日頃私た  
ちは、子ども達にしなやかな心と身体を育むことを大切にしてい保育を進めていますが、逆に今回私達が、まさ  
しくそのしなやかさを問われることとなりました。

このことを通して、『こうでなければならぬ』という思い込みを捨て、ピンチをチャンスにかえる視点を  
大切に、どんな時にも物事をポジティブに変える、そしてささやかな幸せを感じ取ることができる、そんなた  
くましさを持った子ども達に育てていきたいと思えます。

私が、40年間の長きに渡り、この保育の仕事が続けられたのも、子ども達の輝く笑顔と、職場の仲間の支  
えがあったからこそだと今、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも子ども達の笑顔を守るため、職場の仲  
間がそれぞれの『持ち味』を生かしたチームワークで保育の充実に努めてもらい、草津に住んで良かったと思っ  
てもらえるような就学前教育が発展することを願っています。

校 歌

校長会長 松宮 孝明（笠縫東小学校長）

コロナ禍のなか、「今年の6年生や中学校3年生は校歌をしっかりと歌えるだろうか。いや全学年の児童生徒  
も歌う機会が非常に少なく、覚えていないんじゃないだろうか。」年配の人が小学校や中学校時代の校歌を懐  
かしく声高らかに歌って、うれしそうにしておられるのを思い出し、ふと、そんなことを思った。

考えてみると、そんなことは学校教育の中でそんなに大事なことはないと思って教師をしてきた。しかし、  
やっぱり学校で大事にしていかなければならないことって、いろいろあるような気がしてきた。

〇〇小の親子は、「今回はこんな絵を描いたん。へえー、紙もペンも工夫したやん。描き方塗り方も、こんな  
ふうにしたらええんちゃう。」毎学期、こんな会話をするといい。43年間ずっと図工に力を入れてきた伝統  
が染みついていると感じる。

〇〇小の図書室は、1年から6年までのすべての教室のちょうど真ん中であっていつも開いている。授業  
中でも調べたいものがあると自由に行き来する伝統がある。

〇〇中の3年生は、合唱祭の時期になると顔つきが変わる。学校生活全体の姿勢まで変わってくるように思  
う。それを後輩たちは見て育つ。

〇〇小は階によって廊下の色が違う。高学年は、その色を意識して、その階の学年のお手本になる廊下歩行  
を心がける。

〇〇小は・・・ 〇〇中は・・・ 〇〇小は・・・ 〇〇中は・・・ 〇〇小は・・・

草津の教育がずっと大事にしてきたことを、これからもずっと大事にし、巣立っていった子どもたちが自分  
の将来の夢に向かって挑戦したり、飛び立っていくとき、心の底にしっかりと根付いていること。なんか、とて  
も大事なことのよう思う。

# 令和2年度 草津市教育研究奨励事業

今年度も多くの先生方が本事業に挑戦していただきました。ありがとうございました。

教育研究奨励事業は、市内の教職員・保育士の自発的な教育研究活動の促進を図るため、個人またはグループの研究に対して奨励賞を授与し、もって教育・保育現場における意欲的かつ創意あふれる学級、学年、学校・園・所の経営ならびに学習指導法の改善と充実を図り、教職員・保育士の資質向上に資するとともに、草津市の教育・保育の向上を図ることを目的としています。

今年度の応募状況は以下の通りで、応募総数は74点でした。

	保・幼・こども園	小学校	中学校	合計
①就学前教育研究部門	7点			7点
②フレッシュ研究部門		24点	16点	40点
③ステップアップ研究部門		8点	12点	20点
④アイデア部門	2点	4点	1点	7点
	9点	36点	29点	74点

各部門に、最優秀賞、優秀賞、奨励賞があります。そのほかに、特別賞、教育研究所賞があります。

特別賞は、単年の研究に終わらず、継続的に奨励事業に参加し、優れた実践研究やアイデアやグッズの作成を行っている方へ贈られます。また、教育研究所賞は、研究所が指定する分野（道徳や外国語教育、ICTの活用など）の中から優れた研究論文を選んでいきます。

応募者は若手の保育士、教職員から管理職に至るまで幅広く、また継続して応募される方も多いです。研究主題は多岐にわたり、体力づくり、教科指導、ICT活用、学級経営、思考力向上に関するものや、今年度は新型コロナウイルスに対する取組や新しい学習指導要領に関するテーマも多く見られました。

令和3年2月19日（金）には、教育研究所2階研修室において、研究奨励事業表彰式を行いました。式には教育委員をお迎えし、川那邊 正 教育長より賞状が、草津市教育会 寺尾 信一 会長より副賞が授与されました。校園所賞には、高徳中学校と草津中央おひさまこども園が選ばれました。



川那邊教育長より、賞状の授与



寺尾教育会会長より、副賞の授与



稲垣教育委員より総評

次ページには、本年度御応募いただいた研究主題および審査結果の一覧を掲載しています。また、研究論文は Teams の「教材共有ポータルサイト」に掲載しますので、ぜひ御一読ください。

最優秀賞に輝いた先生方には、次年度夏季休業中の研究発表大会において研究内容を発表していただく予定です。

今後とも教育研究所の研究奨励事業への御支援、御協力をよろしくお願いいたします。



来年度も、たくさんのご応募をよろしくお願いいたします。

たくさんのご応募、ありがとうございました！



## 令和2年度 研究奨励事業 審査結果

	所属	形態	応募者(グループ名)	研究主題	賞区分	
就学前教育研究部門	1	笠縫東こども園	共同	保育を考える会	心躍らせながら主体的に環境に関わる子どもの育成 ～おもしろそう やってみたい 保育の中にもICTを～	最優秀賞
	2	草津第二保育所	共同	ぱんだぐみ	リズム運動で培われる子どもの身体と心の成長について	奨励賞
	3	草津中央おひさまこども園	個人	大島 和佳	保育の中における医療的ケアと保育の充実 ～子どもの未来を支える保育について考える～	優秀賞
	4	志津こども園	個人	宇野 智子	幼稚園型認定こども園に求められる教育・保育実践 ～保育の質の向上と可視化が紡ぐ、子どもも大人も心ときめく保育の創造～	優秀賞
	5	玉川こども園	個人	鎌田 暁子	子どもたちがつながり合う輪を目指して ～園・小の輪をひろげよう 玉川の輪 WAI～	奨励賞
	6	矢倉幼稚園	共同	保育を語る会	困難に立ち向かう”4つのエッセンス” ～教育をあきらめない私たちの挑戦2020～	優秀賞
	7	山田こども園	共同	のびのびそだて！ 山田っ子	しなやかな心と体を育む遊びの充実 ～主体的に体を動かすことを楽しめる環境や援助の在り方～	奨励賞

ステップアップ研究部門	1	老上小学校	共同	草津市立老上小学校ICT部	いつでもオンライン授業ができるための指導法の工夫	奨励賞
	2	老上小学校	共同	Fun with English	「伝える」ための書く活動 手紙を書こうプロジェクト ～子どもたちにとって必然性のある場面や状況を考える～	奨励賞
	3	老上中学校	個人	安川 健治	器楽演奏の教材と指導法の開発	奨励賞
	4	笠縫東小学校	共同	笠縫小の子に自信をつけ意欲を高めるチーム	人や物との関わりを通した「話したい」「聞きたい」「考えたい」授業の創造	奨励賞
	5	笠縫東小学校	共同	笠縫小算数科少人数指導チーム	力をつける、伸びを実感できる算数科少人数指導の創造	奨励賞
	6	草津中学校	個人	水谷 哲郎	「中学校社会科における適正な評価に関する研究」 ～主体的な学びを促す授業を通して～	特別賞
	7	志津小学校	個人	後藤 慎弥	「数学的な見方・考え方」を働かせて学ぶ授業づくり ～具体的な子どもの姿の創造と有効な手立ての探求～	奨励賞
	8	志津小学校	共同	地域とともに夢を育む「志」研究会	社会に開かれた教育課程を創るカリキュラム・マネジメント ～地域とともにつくる「けん玉活動」を通して～	最優秀賞
	9	新堂中学校	個人	齋藤 英樹	「別室指導体制の構築・確立について」～教室復帰をめざして～	奨励賞
	10	高穂中学校	共同	校内研究推進委員会	社会で生きて働く力を育むカリキュラムマネジメント ～「学校教育目標」を軸に全教科をつなぐ～	奨励賞
	11	高穂中学校	共同	校内研究推進委員会	withコロナ・GIGAスクール時代の学習支援 ～学習支援動画の取り組みを通じて～	奨励賞
	12	高穂中学校	個人	佐藤 佑香	生徒の学びを進化させる授業づくり ～ICTを活用して～	奨励賞
	13	高穂中学校	個人	手島 剛也	生徒の学習改善と教師の授業改善につながる研究 ～新しい学習指導要領を見据えた中学校理科の授業改善を通して～	奨励賞
	14	高穂中学校	個人	手島 剛也	新型コロナウイルス感染症対策から見えた学校安全の一考	奨励賞
	15	高穂中学校	個人	山田 周峰	多面的・多角的に考える道徳の授業をめざして	奨励賞
	16	高穂中学校	個人	大岡 みすず	中学理科における科学的思考を育むための授業改善 ～生徒一人ひとりが「思考・判断・表現」する力を高める～	最優秀賞
	17	高穂中学校	個人	東 留以	信頼関係の構築を念頭に置いた集団作り ～コロナ禍における学級集団作りの実践～	奨励賞
	18	松原中学校	個人	定光 重直	不登校生徒の特徴 ～小・中の追跡からの分析～	優秀賞
	19	南笠東小学校	共同	MGH AWD パワー チーム	学びを止めない教育活動を目指して ～VSコロナからWithコロナへ～	優秀賞
	20	矢倉小学校	共同	校内研究部	「主体的・対話的で深い学び 自ら学び、交流する児童の育成から、深い学びのあり方を探る」	奨励賞

フレッシユ研究部門	1	老上小学校	個人	宇野 詩織	言葉への興味が広がる授業づくり	奨励賞
	2	老上小学校	個人	津田 雅貴	児童の思考の可視化と意見交流に関する実践研究	奨励賞
	3	老上西小学校	個人	原 美由紀	「宿題」のゲームチェンジで手に入れる自己学習力 ～「やらされる勉強」から「自らやる学び」へ～	最優秀賞
	4	笠縫小学校	個人	久保井 達也	児童が意欲的に取り組む漢字学習を目指して	奨励賞
	5	笠縫小学校	個人	高見 祐奈	表現を豊かにする音楽科の授業づくり	奨励賞
	6	草津小学校	個人	矢野 美幸	不登校傾向の子どもとの関わり ～校内での取組や関わりについて～	奨励賞
	7	草津小学校	個人	山田 俊一	若手教員の指導力向上に関する研究 ～体育学習を窓口にして～	奨励賞
	8	草津小学校	個人	永田 粋	だれもが安心できる学級づくり ～人権学習を通して、悩みを相談できる学級へ～	奨励賞
	9	草津第二小学校	個人	吉川 和希	小学校入門期における子どもの読書意欲を高めるための取り組み	優秀賞



フ レ ッ シ ュ 研 究 部 門	10	草津中学校	個人	石川 まりあ	読み解く力を育むために ～主体的・対話的な授業の実践～	奨励賞
	11	草津中学校	個人	佐竹 二三也	生徒の学習計画立案能力の向上に向けた学習指導法の提案と実践 ～コロナ禍に直面した生徒の学びを止めないために～	優秀賞
	12	草津中学校	個人	三宅 勇輝	化学変化をマクロとミクロの視点で捉えさせるための研究	奨励賞
	13	草津中学校	個人	松宮 志栞	対話と表現を重点においた中学校数学科の授業実践 ～「アウトプット7割」の授業を目指して～	奨励賞
	14	志津小学校	個人	佐々木 邦彦	ICT機器を活用した、見方・考え方を働かせて学ぶ授業づくり	奨励賞
	15	志津小学校	個人	中村 奈緒子	対話する必要性を生み出し、深い理解につながる授業の実践研究 ～学習のつまずきを学級全体で共有する話し合い～	奨励賞
	16	志津南小学校	個人	石橋 朋晃	1人1台のタブレットを活用して、誰もが参加者になれるディベート学習の実践	奨励賞
	17	志津南小学校	個人	佐山 みなみ	子どもたちと育む心の健康 ーありがとう・良いところ見つけの活動を通してー	奨励賞
	18	渋川小学校	個人	神山 みなみ	「ことばの学習っておもしろい！」MIMの取り組みを通して	奨励賞
	19	渋川小学校	個人	小島 有伽	レツトライ ビブリオバトル ～本を通して自信をもって話す・聞く力を養う～	奨励賞
	20	渋川小学校	個人	寺井 詩織	楽しく言葉を学ぼう！ ～MIMによるスムーズな読み書きを目指して～	奨励賞
	21	渋川小学校	個人	山崎 仁子	結果の見方と再現性の追求力を育む	奨励賞
	22	新堂中学校	個人	杉山 侑起	自分事として捉え、自らについて考える「道徳」の授業	奨励賞
	23	高穂中学校	個人	西出 尚記	思考・判断・表現力を育む授業作りと実践研究	奨励賞
	24	高穂中学校	個人	今澤 宏太	図形領域における証明指導の工夫 ～ステップチャートの実践を通して～	最優秀賞
	25	高穂中学校	個人	中井 佳美	自分の意見に自信をもって他者に伝えられる力を育てる ～「読み解く力」の育成に重点を置いた授業づくりを通して～	奨励賞
	26	高穂中学校	個人	七里 昌司	子どもたちの心にめばえを ～学級通信で創る学級経営～	奨励賞
	27	高穂中学校	個人	佐竹 陸	数学科におけるめあてと振り返りの活用とその効果	奨励賞
	28	高穂中学校	個人	山脇 由裕	生きる力を育むキャリア教育を目指して～アントレプレナーシップによる実践～	奨励賞
	29	高穂中学校	個人	木下 直翔	「主体的・対話的で深い学び」を生み出すめあて・振り返りの研究	奨励賞
	30	高穂中学校	個人	田村 梨沙	豊かな表現力の育成 -言語活動を取り入れた歌唱の授業を通して-	奨励賞
	31	高穂中学校	個人	黒木 竜成	「学習形態」と「ICT機器の活用」が子どもたちに与える影響 ～ICT機器を有効に活用するために～	奨励賞
	32	高穂中学校	個人	横江 渉	学年生徒指導担当としての資質の向上と研修 ～本校生徒の学校教育目標「判断力・あいさつ力・挑戦力」の育成に向けて～	奨励賞
	33	玉川小学校	個人	西村 由花	「自分が好き！」「クラスが好き！」～自信と笑顔溢れる学級経営を目指して～	優秀賞
	34	玉川中学校	個人	小山 尚子	ユニバーサルデザインを意識した授業	奨励賞
	35	常盤小学校	個人	長野 裕也	タブレットPCを活用した、主体的・対話的な学習の探求 ～単元を貫いてタブレットPCを活用する社会科の学習～	教育研究所賞
	36	常盤小学校	個人	木村 早希	「草津型アクティブ・ラーニング」の追求 ～子どもたちがつながる授業を目指して～	優秀賞
	37	南笠東小学校	個人	神田 達也	「出川イングリッシュ」でコミュニケーション能力を高める外国語活動	奨励賞
	38	矢倉小学校	個人	中嶋 葉子	「知っている」と「分からない」をつなぐ授業スタイルの確立	奨励賞
	39	山田小学校	個人	土井 祐磨	主体的に理科を活用する子どもの姿を目指した理科学習 ～生物分野における理科の見方・考え方の育成を通して～	奨励賞
	40	老上小学校	個人	水崎 達郎	学習の見通しを持ち、主体的に国語科学習に取り組む姿を求めて ～シンキングツールを活用した物語文・説明文の指導を通して～	奨励賞

アイ デ ィ ア 部 門	1	老上小学校	個人	佐々木 栄	席がえ簡単カード	奨励賞
	2	老上小学校	個人	佐々木 栄	ゆびさっくん(鍵盤ハーモニカ・リコーダー運指練習グッズ)	奨励賞
	3	矢倉幼稚園	個人	高木 貴美子	『ほメダル』～きみは素敵だよ～	優秀賞
	4	矢倉幼稚園	個人	高木 貴美子	「わくわくスケジュールボード」で視覚支援 ～今日は何してあそぼうかな～	奨励賞
	5	山田小学校	個人	藤井 悦子	説明文の「はじめ」「中」「終わり」が一目で分かる！！	奨励賞
	6	草津第二小学校	個人	長谷川 詩奈	外国語活動で「見通し」と「各活動の目的意識」を持てる方法	奨励賞
	7	草津中学校	個人	奥山 有紀	生徒がアルトリコーダーの運指を確認する方法	奨励賞

## 学び手改革 ～ アクティブ・ラーナーの育成をめざして ～

### 1 研究主題 情報活用能力を伸ばすための小学校社会科の授業改善 ～ 一人一台のタブレット端末を活用して ～

### 2 研究の概要

新学習指導要領において、情報活用能力は各教科の学びの基盤となる資質・能力の1つと位置付けられ、教科等横断的な視点での育成が求められている。本研究の目的は、情報活用能力を伸ばすための授業改善の提案である。学習過程において、一人一台のタブレット端末や思考ツールを活用し「主体的・対話的で深い学び」を目指す「New-KAL (New 草津型アクティブ・ラーニング)」の視点に立った実践に取り組んだ。

### 3 研究の方法

- (1) 社会科における情報活用能力、タブレット端末活用についての意識調査を行い、実態把握をする。
- (2) 実態調査の結果や先行研究の知見を踏まえ、情報活用能力を伸ばすための授業設計をする。
- (3) 小学校2クラスの児童を対象に、タブレット端末を児童主体で積極的に活用するクラスと、教師が意図的に時間を決めて活用するクラスに分けて授業実践を行う。
- (4) 授業実践後、再度意識調査を行い、有効性を検証する。

### 4 研究の成果

- (1) タブレット端末を児童主体で積極的に活用したクラスの児童は、教師が意図的に時間を決めて活用する児童に比べて、主体的・対話的で深い学びの過程の「課題設定」「情報の収集」「情報の整理・分析」「まとめ・表現」のどの過程においても、情報活用能力が高まったと自己評価した。また、タブレット端末を使うことで、友だちの考えがわかりやすいと感じたり、課題を解決する(自分の考えをまとめる)のに役に立つと考えたりする児童が増えた。
- (2) さまざまな思考ツールの活用により、学習者自身がツールのよさを感じ、主体的に使おうとする姿が見られ、思考が深まった。

#### 〔具体例〕

- ①学習計画を学習者自身が立てることで、自分の課題に対する見通しや多面的なアプローチの仕方、進捗状況が分かり、主体的に学習に取り組めた。(フィッシュボーン)
- ②話し合う視点が明確になり、話し合いのゴールに向かって活発な意見交換ができた。(ピラミッドチャート)
- ③イメージや考えを可視化することで、自分の持っているイメージや知識、知らないことや疑問が明らかになり、学習課題を考えやすくなった。(イメージマップ)

- (3) 各々が調べた特色ある地域の情報を協働的に整理する中で、特色ある地域が人々に支えられているという共通点を見出すことができ、さらに「自分たちにできることはないか」と具体的に考えることができた。
- (4) 単元を貫く課題を立てることで、学習のゴール(目的意識や相手意識)が明確になり、他教科でもまとめることが苦手な児童の意欲が、最後まで持続する姿が見られた。

### 5 今後の課題

- (1) 本研究の指標は児童へのアンケートが主で、客観的な数値で評価できていない。正確な分析をするためには情報活用能力を測る具体的な指標やテストを開発することが求められる。
- (2) 情報をまとめる活動では、相互評価がしやすいようにルーブリックを示すことが必要である。
- (3) タブレット端末をさらに活用するために、URLリストのQRコード化、思考ツールのデジタル化、Teams等のアンケート機能を使うなど、ICT活用の技能を高めていきたい。
- (4) タブレット端末で何ができるのか、何のために使うのかを指導者と学習者が共に考えていくことが大切で、あくまでも学習用具の一つとして活用できるようにしなければならない。

※研究員の論文は、Teamsの「教材共有ポータルサイト」に掲載しますので、ぜひ御一読ください。

## 地域教材（わたしたちの草津）の編集について

今年度は、令和2年3月に発行した新しい地域教材（わたしたちの草津）と指導書を活用した授業実践の検証を行いました。コロナ禍により例年より減少しましたが、編集委員の3年生担当の先生方には、学習指導要領に合った内容になっているか、問題解決的な学習にするためにはどのような課題設定をするべきか、という視点で授業実践を行っていただきました。

### 「わたしたちの草津」3年生用指導書 ver.2 を発行します

草津市に初めて採用された職員でも「わたしたちの草津」を効率的に使う指導が行えるように、指導書をより活用しやすく、分かりやすくするために、以下のことを重点にバージョンアップしています。

- ①問題解決型の学習になるように、本時の課題をできるだけ疑問形にする。
- ②単元の流れ「つかむ」の中に、学習の単元を貫く学習課題の例（学習の問題＋表現活動）を記載する。
- ③3観点に基づく評価規準の例と、子どもの学習状況を見取るためのチェックポイントを挙げ、指導と評価の一体化を意識できるようにする。
- ④一人一台のタブレット端末がいつも学習者の手元にあることを前提に、具体的な活用方法を多く提案する。
- ⑤コロナ禍などにより校外学習（見学）が行えない場合の、指導例についても記述する。
- ⑥参考資料のURLをQRコードで記載する。

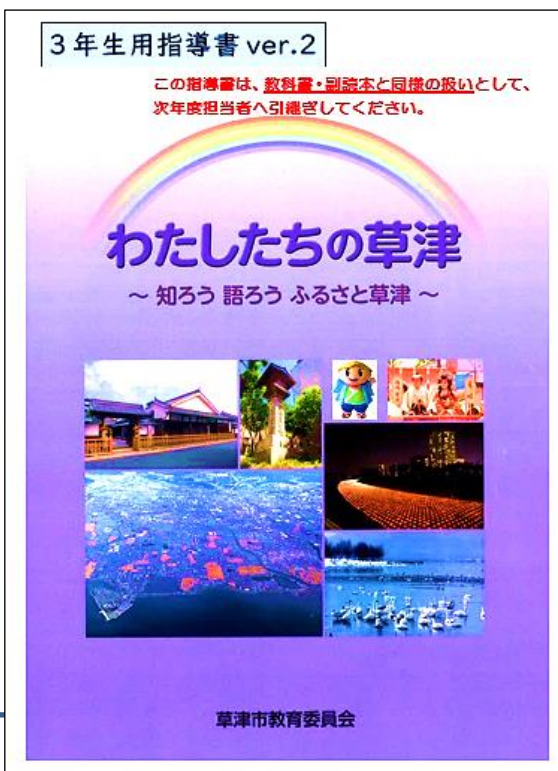


**3年のクラス数＋特別支援学級用1**を各学校へ配布します。（3月末ごろの予定をしています。）

この指導書に関しましては、教師用教科書等と同じように次年度の3年生へ引き継いでいただきますよう、よろしく願いいたします。また、下記フォルダ内に公開していますので、お知りおきください。

<データ保存先>

Public → 情報提供「教育研究所」 → 「わたしたちの草津」







## 草津型アクティブ・ラーニングで授業改善 ～スキルアップ支援講座を振り返って～

スキルアップ支援講座は、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりをめざし、その手段の一つとしてICT機器（電子黒板、タブレットPC等）の効果的な活用法を実践することを通して、授業改善につなげてきました。第4回の研究授業では、オクリンクを活用し、ペア学習やグループ学習を取り入れた子ども主体の活動を展開していました。草津型アクティブ・ラーニングに一步近づいたように感じました。また、研究協議を学年部で実施したり、校内研究に位置付けて全校体制で臨んだりした学校もありました。



スキルアップ  
対象者から



- ・自分の授業を見直せ、周りの先生方からアドバイスして頂くことは、授業を変える機会でした。
- ・子どもが主体的に学習を進めることが、年度当初よりもできるようになってきたような気がする。
- ・自分の見えていなかった課題等を発見できる貴重な場でした。
- ・授業に必要なスキルをたくさん教えていただき、「この授業は上手くいったな」と思うことが増えてきました。
- ・指導いただいたことを元実践すると、児童の雰囲気や意欲・態度が目に見えて変化した。私自身も授業が展開しやすくなったと感じた。



## GIGA スクールのプログラミング教育 ～ICTスキルアップ支援講座～

小学校1学年からプログラミング教育が開始された今年度は、4年目を迎えた Pepper ロボットプログラミングをはじめとして、Viscuit や Scratch3、Scratch Jr といったプログラミングツールを使った学習が次々と実施されました。また、2学期からは一人一台のタブレット端末の配置と校内 Wi-Fi 環境が整備され、オンライン学習の準備が進みました。ICT スキルアップ支援講座ではプログラミング授業の推進やオンラインツールを活用するための技術的なサポートをしてきました。

意図した活動をプログラミングによって実現して課題解決に役立てる学習は、学習だけでなく生活の中でも役に立つ能力を養うことができます。



# やまびこだより

## 適応指導教室から

♪**囲碁ボール**♪ 1月27日に開催した、たびすけDAYでは、みんなで一緒に囲碁ボールをして楽しみました。それぞれのチームに分かれてボールが入った点数を競い合いました。



☆たびすけDAY☆



♪**節分・バレンタイン調理**♪ 2月15日には節分とバレンタインデーを兼ねて、みんなで、チョコ、バナナ、きな粉の中から好きな食材を選び、手作りのケーキに挑戦しました。

適応指導教室には、今年度22名の児童生徒が在籍していました。先生方には子ども達に会うために、お忙しい授業の合間に適応指導教室の子どもの様子を見に来たり、各種行事の折に見学に来たりしていただき、ありがとうございました。教室に通う子ども達は、とても喜んでいました。また、各関係機関の方々にも大変お世話になりました。みなさまこの1年間、本当にありがとうございました。

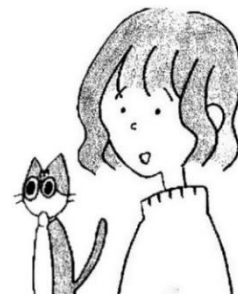
## 相談室から

教育相談室での相談は、昨年度と比べると小学生の相談が減少した一方で、中学生の相談が増加しました。傾向として、小学校中学年頃から学習についていけなかったり、クラスの中うまく入れなかったりして、しんどくなるようです。学校や家庭において、子どもたちが出す様々なサインを見逃さずに早期に対応したいものです。



やまびこでは、今年度から新たにSSW（スクールソーシャルワーカー）を常勤で配置し、保護者・児童生徒それぞれへの面談を受けて、学校と連携して複合的な課題を整理しながら、子どもや保護者が自らの力で問題に向き合っていけるよう支援しています。今後ともよろしくお願いします。





## ゲーム・スマホ障害



今の子どもや若者にとって、ゲームやスマホが日常生活や人間関係に与える影響は多大なものです。多くの家庭において、1分1秒でも長くゲームやSNSに興じた子どもと、それを止めさせようとする親のバトルが繰り返されているのではないのでしょうか。そもそも大企業が多大な資金を投入し、皆が夢中になるように総力をあげて開発しているものに、未熟な子ども達が太刀打ちできるわけがありません。そう簡単には止められないあらゆる仕掛けがそこに張り巡らされています。

この問題は看過できるものではなく、2019年、WHOのICD(国際疾病分類)-11の嗜癖行動障害の項目の中にいよいよ**ゲーム障害**が加えられ、2022年から適用が開始されます。

ゲームもスマホも、それ自体が悪い物ではありません。使い方によっては、大変便利で生活に大きな益をもたらしてくれるものです。ただ、この「使い方によっては」という類の物はやっかいです。健全な家族が守ってくれ、本人自身が自制心や判断力をもっているならばそれは益になります。しかし、「現実世界でしんどさを抱えている」「孤立傾向にある」などのリスク要因を抱えた子ども達に大きな弊害が及びます。

ゲーム依存とならないためには、「止めなさい」と怒ったり、諭したりしてだけでなく、複数の大人で見守りながら、ゲーム以外の楽しみを持たせていく工夫が必要であり、依存のリスクから逃れる力をつけていかなければなりません。



### 《子どもを依存から守る要因》

- ・現実世界でうまくやっている
- ・環境に適応できている
- ・ポジティブなアイデンティティがある
- ・自己肯定感がある
- ・子育て、教育に保護者が積極的に関わる



他にも学校生活の項目では、「クラスに溶け込んでいる」「学校が楽しいと感じる」こともゲーム依存の防御要因となります。

また、日本小児科医会は子育て中の保護者のゲーム・スマホの使用についても警鐘をならしています。親がゲーム・スマホの画面に注視している間に子どもの視線や語りかけを見逃し、知らず知らずのうちに愛着形成に影響が及ぼされ、母子分離の難しい子どもや小さな不安に打ち勝てない子ども達が増えているとも言われています。

子ども達がゲームやスマホ依存に陥らない為に、子どもの健全な成長が支えられる為に真剣な取り組みが必要な時代となっています。



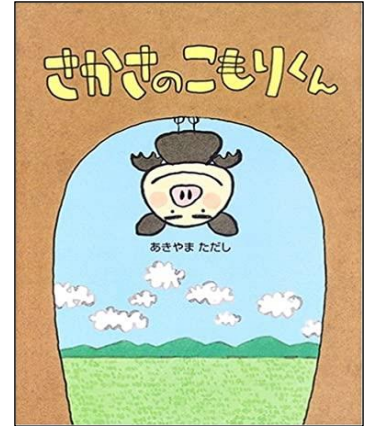
シリーズ  
**司書さんおすすめの絵本**



**「さかさのこもりくん」** (あきやま ただし/作・絵 教育画劇)

逆さまになって暮らしてきたから反対言葉しか話せない、こうもりのこもりくん。誰かと遊びたいのに「あっちいって!」「ぼくとあそばないでね!」と言ってしまうので、気持ちが伝わりません。でもくまくんは「はんたいのこといってるね」と気づいてくれ、遊ぶことができたのでした。

こもりくんは素直になれない子を、くまくんはそんな気持ちを押し量れる子を、それぞれ象徴している気がします。最後に本当の気持ちを伝えるこもりくんが素敵です。



**「これは本」** (レイン・スミス/作 青山 南/訳 BL出版)

パソコンが得意なロバくん、サルくんが持っている本に興味津々。なんとロバくんは本を見たことがないので。

「どうやってスクロールするの?」「ツイッターは?」「Wi-Fiは?」と、とんちんかんな質問ばかり。サルくんは「できない。これは本だから。」と答え続けます。文が多いと文句を言いつつ、いつしか本に没頭するロバくんでした。

IT 機器との関わりが不可欠となった現代。ロバくんのように本の魅力に気づく子が増えたら嬉しいです。

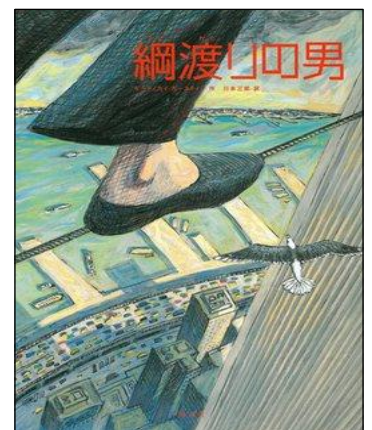


**「綱渡りの男」** (モーティカイ・ガースティン/作 川本三郎/訳 小峰書店)

ニューヨーク貿易センタービルのツインタワーの間を、綱渡りで渡った大道芸人フィリップ・プティ。実話であることと、このビルが今は無い理由にも触れたい絵本です。

フィリップの挑戦はバカバカしく、迷惑なことでさえあります。しかし「好き」を貫く姿勢にはワクワクしてしまいます。逮捕されたフィリップの裁判で、裁判官が彼に告げる洒落た一言にも、思わずニヤリとさせられます。

高所恐怖症の人は閲覧注意の、迫力ある構図も見事です。



**読み聞かせにご活用を!!**